

実績報告 別記第2号様式 別紙2の  
テーマごとに作成してください。

別紙3  
様式例 活動報告書

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	1130412
施設名（園名等）	国本幼稚園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

昨年度の木育活動を通して森での活動に興味を持っている年長組の子どもたちと実際に森に行き、五感を使った自然体験から自然環境の大切さを学び、さらに関心を深めることを目的とする。また、ワークショップで木材を使った制作やDIYで間伐材を再利用し、自由な発想の中でより身近に森を感じられるような活動をする。

### 2. 活動スケジュール

第1回目：7月14日（月）・15日（火）『さあ、奥多摩の森へ行こう！』  
第2回目：10月25日（土）・26日（日）『記念祭木育ワークショップを楽しもう！』  
第3回目：11月6日（月）『ウッドプランターを作って野菜を育てよう！』

### 3. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

#### 第1回目：7月14日（月）・15日（火）『さあ、奥多摩の森へ』

場所：奥多摩の森（株式会社森と市庭の社有林）

・お泊り保育で奥多摩へ出かけた。園からは大型観光バスで森のふもとまで向かい、マイクロバスに乗り替えて森の入り口まで移動した。

・一日目の活動は奥多摩の森で「明るい森（伐採により光が入るように手入れをされている森）と暗い森（手つかずの森）の違い」を体感した。坂道を登りながら感じたこと考えたことを言葉で表現できるように問いかけた。正しい答えを導くのではなく、子どもたちの自由な発想を認め、表現することを大切にすることを意識した。

教諭：こっちの森はどう？

子ども：明るい！

子ども：明るい森の木は（幹が）太い！下に草がいっぱい生えてる！黄緑色！動物が草を食べに来るんじゃない？

教諭：こっちの森（道を挟んで反対側の森に対して）はどう？

子ども：暗い！

子ども：暗い森の木は細いよ。でもいっぱい生えてる。濡れてジメジメしてる。黒い緑色。土が見えてる

教諭：なんで暗いのかな？

子ども：上見て、お日様の光が入らないよ

子ども：暗いね、なんでかな

子どもたちはつぶやきながら坂道を歩き、息を大きく吸ってみたり立ち止まったりしていた。

・森の中には沢があり実際にそこに入り冷たい水を感じたり、ツリーハウスに登って高いところから遠くを見たり、鋸屑がたくさんたまったふわふわした地面で飛んだり跳ねたりして身体を存分に動かしながらおいを感じたりして遊んだ。

・ヒノキの木があちこちに無造作に置いてあり、その木の皮を剥ぎながら木の質感を楽しんでいる子もいた。

・でこぼこした地面の森の中で、実際に一人一人がのこぎりを持って一本のヒノキをみんなで切る木こり体験をした。すぐには倒れない木に全員で手を入れ、最後に倒れた時には「ギギギーって音がしたよ」「木が痛いーって言ったのかな」「やっと倒れたね」「大変だったね」など様々な感想を言っていた。

・二日目は事前に自分たちでやすりをかけて準備していたヒノキの木片にマジックで色を塗ったり絵を描いたりしてキーホルダー作りをした。

子ども：ヒノキのいいにおいだね。これ森のにおいだよ。

子ども：木にもきれいに描けるね。ママに見せよう。

思い思いに描き、森での思い出が詰まった作品となった。

・活動を体験して感じたことや考えたことを更に深められるように園に戻ってからも保育室に画像を貼っておいた。お泊まり保育後、体験したことを思い出したり、馴染みのあるヒノキの木に触れ、子どもたちが遊びに取り入れたりする姿が見られる。



## 第2回目：10月25日（土）・26日（日）『記念祭木育ワークショップ』

### <木育ワークショップ>

準備物：ヒノキの木片や鉋屑、やすり、ボンド、グルーガン、ボタンやビーズ、紐やリボンなどの装飾素材、軍手 場所：保育室

### <のこぎり体験>

準備物：木材、のこぎり台、のこぎり、インパクトドライバー、板、ビニールシート  
場所：テラス

### <鉋屑プール>

準備物：鉋屑、木製プール、ビニールシート 場所：木製滑り台周辺スペース

・学園内の芝生広場で行う予定だったが当日はあいにくの雨で屋根のある場所での開催となった。

・『記念祭』は毎年行われる国本学園の学園祭であり、在園児の家族連れだけではなく、卒園生、小学生、地域の方々などで賑わう中で木育活動ができた。多くの人に幼稚園の活動を見て体験し理解を深めてもらう良い機会になった。

・木育ワークショップは教員がついて案内する。

・幼児は親子での入室。グルーガンは安全に気を付けて使用することを促す。

・木片の角をやすりで整え、ボンドやグルーガンでそれを自由に組み立てたりつなげたり装飾を施したりした。

子ども：ヒノキのにおいだね

・シートの上にヒノキの木片を山積みにしておき、自分で好きな形を探して自由な発想で作品を作り上げていた。（ロボット、車、家、オブジェなど）

・のこぎり体験では片手で木を押さえ、引くときに力を入れる、切れるまでには根気が必要であることに気付いた。未経験の保護者も多く、貴重な体験ができたとの感想が聞かれた。

・鉋屑プールでは中に入って鉋屑をちぎったり踏んだりしながら香りを存分に感じて楽しんでいた。



第3回目：11月6日（月）『ウッドプランターを作って野菜を育てよう！』

準備物：ヒノキの板、植物由来のペンキ、刷毛、ブルーシート、拭き取り用タオル  
安全に道具を使用するために森と市庭のスタッフに補助をしてもらった。

- ・行程①ヒノキにペンキを刷毛で塗る

教諭「この木は何の木かな？」

子ども「ヒノキだ！」「森のにおい」と気付く。

子ども「下駄箱や滑り台と同じ色だ！」

教諭「刷毛を使ってみよう」

子ども「いいね！」「これ知ってる！」

子ども、友だちと協力をしながら声をかけている「ここも塗ろうよ」



- ・行程②タオルで余分なペンキを拭き取る

子ども「タオルで拭くの？」

教諭「ペンキの色をヒノキに馴染ませようね」

- ・行程③プランターを置くところにヒノキの杭を打つ

子ども「大工さんみたい」「大きなトンカチ！」

教諭「一人ずつゆっくり10回杭打ちをするよ」

子ども「せーの！いち、に、さん、し・・・」「がんばれー！」



- ・行程④プランターの形に合わせて板にビスを打ち、組み立てる

教諭「この道具はインパクトドライバーっていうんだよ」（音を聞かせる）

子ども「わー！ブーンっていった！」「すごい！できるかな」

・大工さんが使う本物の道具を目の前にして少し緊張気味の子ども達だったが、喜んで杭打ち体験をすることができた。

完成！

子ども「できた！」「すごく大きいね！」

- ・プランターのペンキが乾いてから 40 リットルの培養土を入れた。



教諭「みんなで力を合わせてプランターに土を入れよう！」

子ども「みんなで持ち上げよう！せーの！重い！」土は重いと感じる。

・年間を通して苗や種を植え、野菜を育てている。収穫後は観察画を描いたり制作を楽しんだり様々な活用をしている。更に育てた野菜を使ってクッキングを行い、美味しく食べて食育にもつなげている。今後もウッドプランターに野菜や花の種を植え、子どもたちと育てながら食育につなげ、さらに子どもたちの知的好奇心も深めていきたいと考える。



#### 4. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、子どもたちは日々探求心をはぐくみ、常に新たな発見を楽しみ、友だちと共有していた。「これはなんだろう」「どうしてだろう」という気づきに出合う度、その気づきに対して大人が先に答えを導き出すのではなく「何があった?」「どうしてそう思ったの?」「どうだった?」等の問いかけを心がけた。言葉で表現することで学びが深まり、友だちの思いを聞くことで対話が生まれ、子どもたち同士の思いがつながっていったように感じた。学びの深まりには終わりがなく、振り返ることで「じゃあこうしてみようか」「次はこうしてみたらどうだろう」「もっと知りたい」という更なる探究心にもつながっている様子があった。自然の大切さを教え込むのではなく、実体験の中で子どもが自ら気づき、友だちと一緒に関わる中で自然に対する興味関心が生まれ、より豊かな学びになることがわかった。